

熊野古道の背景林「七里御浜国有林」

しちりみはま

三重森林管理署



海岸林として親しまれている七里御浜国有林

七里御浜国有林は、延長約二五キロメートル、面積約九二ヘクタールの海岸林で、三重県熊野市・御浜町・紀宝町にまたがる熊野灘に面する美しい白浜と玉砂利の緩やかな曲線を描く海岸沿いにあります。

七里御浜の海岸林の歴史は古く、関ヶ原の戦いの後、初代紀州藩主の徳川頼信に従って新宮城へ入城した水野重仲が浜松から松苗を取り寄せ植林したと伝えられています。

以来、地元の防風林としての役割を続け、明治の国有林成立後は一貫して国が管理し、防風保安林、保健保安林、吉野熊野国立公園の第一種特別地域に指定され、最近では、世界文化遺産の熊野古道（熊野参詣道「伊勢路ルート」）の背景林として多くの方に親しまれています。

また、「レクリエーションの森」を設定し、地域住民の憩いの場として提供するとともに世界文化遺産貢献の森林（紀伊山地の霊場と参詣道周



防風林の役割をしているマツ林

辺の国有林）にも設定されています。

七里御浜国有林は、かつては、樹齢百年以上

グリーン・グロー作戦でボランティアによる植樹



上を経た見事な松林を形成していましたが、昭和三〇年代から発生したマツクイムシ等によるマツ枯れ被害

が、年々増加し、松林の衰退化で防風効果が危ぶまれるようになってきたことから、昭和六二年に地元市町村と関係機関が協力して「七里御浜松林を守る協議会」が設立され、地域住民のボランティアによる植樹、林内清掃などの松林の保全活動（グリーン・グロー作戦）を積極的に行ってきました。

また、平成一六年一月には、「ふれあいの森」として当協議会と協定を締結するなど、地域に根付いたボランティア活動として定着しており、近年においては、自治会等が中心となってゴミの回収も積極的にに行われています。

そうした中、三重森林管理署では、マツクイムシの被害を防止す

るため、薬剤の地上散布による防除や被害木の伐倒駆除を実施していますが、平成一七年度からは薬剤の地上散布に替わり、新たに樹幹注入による防除を取り入れ被害の防止に努めているところです。

また、貴重なアオウミガメの産卵の場となる砂浜もあり、多くの方が訪れることから景観を維持するための森林整備や地域住民の憩いの場としての林内散策コースの整備などを進めるとともに、保安



林内散策コース

林、防災林としての森林の機能が果たせるよう海岸林の造成や保安林管理道の整備に努めています。

〒五一九・〇一一
三重県亀山市本町一・七・一三三
TEL 〇五〇・三二六〇・六一〇〇
FAX 〇五九五・八二・八七九二
<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/nie>